

1. 経緯

- 「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」(主催:安倍総理、座長:津川雅彦氏)において、日本人の美意識・価値観を国内外にアピールし、その発展及び国際親善と世界の平和に寄与するための施策の検討等を実施。
- 2020年の「日本博」については、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として日本の全国各地で実施することとされ、第6回の同懇談会(2018年6月22日開催)において、総理から文部科学省・文化庁に対して準備を進めるよう指示。

2. 関連スケジュール

2015年:「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」発足

2016年:「日本仏像展」(於:イタリア)を開催

2018年:「ジャポニスム2018」(於:フランス)を開催

2019年:「Japan 2019」(於:米国),「響きあうアジア2019」(於:東南アジア)を開催

2020年:「日本博」(於:日本)を開催

(※ 同年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催)

1 総合テーマ：「日本人と自然」

2 基本コンセプト

「日本の美」は、縄文時代から現代まで1万年以上もの間、大自然の多様性を尊重し、生きとし生けるもの全てに命が宿ると考え、それらを畏敬する「心」を表現してきた。

日本は、景観や風土を大切にし、縄文土器をはじめ、仏像などの彫刻、浮世絵や屏風などの絵画、漆器などの工芸、着物などの染織、能や歌舞伎などの伝統芸能、文芸、現代の漫画・アニメなど様々な分野、衣食住をはじめとする暮らし、生活様式等において、人間が自然にたいして共鳴、共感する「心」を具現化し、その「美意識」を大切にしている。

「日本博」では、総合テーマ「日本人と自然」の下に、「美術・文化財」「舞台芸術」「メディア芸術」「生活文化・文芸・音楽」「食文化・自然」「デザイン・ファッション」「共生社会・多文化共生」「被災地復興」などの各分野にわたり、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えることで更なる未来を創生する。

この文化芸術の祭典が、人々の交流を促して感動を呼び起こし、世界の多様性の尊重、普遍性の共有、平和の祈りへとつながることを希求する。

3 開催時期等

2020年を中心としつつ、その前後の期間も含めて幅広く展開

4 実施にあたってのポイント

2020年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、「日本の美」を体現する美術展・舞台芸術公演・文化芸術祭等を全国で展開。

「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトの下、日本が誇る様々な文化を、四季折々・年間を通じて体系的に展開。

文化庁を中心に、関係府省庁や文化施設、地方自治体、民間団体等の関係者の総力を結集した大型国家プロジェクト



- オリパラ前、期間中、オリパラ後のインバウンド拡充
- 訪日外国人の「地方への誘客」の促進
- 国家ブランディングの確立

日本博 旗揚げ式

文化庁・独立行政法人日本芸術文化振興会

2019年3月3日(日)

於：国立劇場大劇場

- ▶ 招待者約700名を迎えて開催。
- ▶ 林英哲氏・英哲風雲の会による和太鼓演奏、宮田文化庁長官と歌舞伎俳優の中村扇雀氏・尾上菊之助氏らによるトークセッションなどを実施。
- ▶ ロゴマークを発表するとともに、柴山文部科学大臣、宮田文化庁長官が日本博開幕を宣言して閉会。



菅内閣官房長官あいさつ



柴山文部科学大臣らによる開幕宣言



俵屋宗達「風神雷神図屏風」
高精細レプリカを会場に展示
陶板製作：大塚オーミ陶業株式会社



ロゴマーク、登壇者を囲んで



林英哲氏・英哲風雲の会による和太鼓演奏

主催・共催型

「総合大型プロジェクト」

「日本博」の中核となる総合大型プロジェクト（国、文化施設、民間団体、事務局等が共同で企画・実施）

「分野別大規模プロジェクト」

「日本博」のテーマ及びコンセプトを加味した大規模な展示・公演等のプロジェクト（全国的な活動を行う団体等が主催）

委託費

日本芸術文化振興会
において企画提案受付

- ※4月18日～23日まで一次受付
- ※4月24日～5月14日まで二次受付
- ※5月20日～6月4日まで三次受付

公募助成型

各地域や団体の特色ある企画を公募し事業費を一部助成

補助金

文化庁において公募
（イノベーション型）

※4月5日～23日まで一次公募
今後、二次公募予定

文化庁において公募
（文化資源活用推進事業）

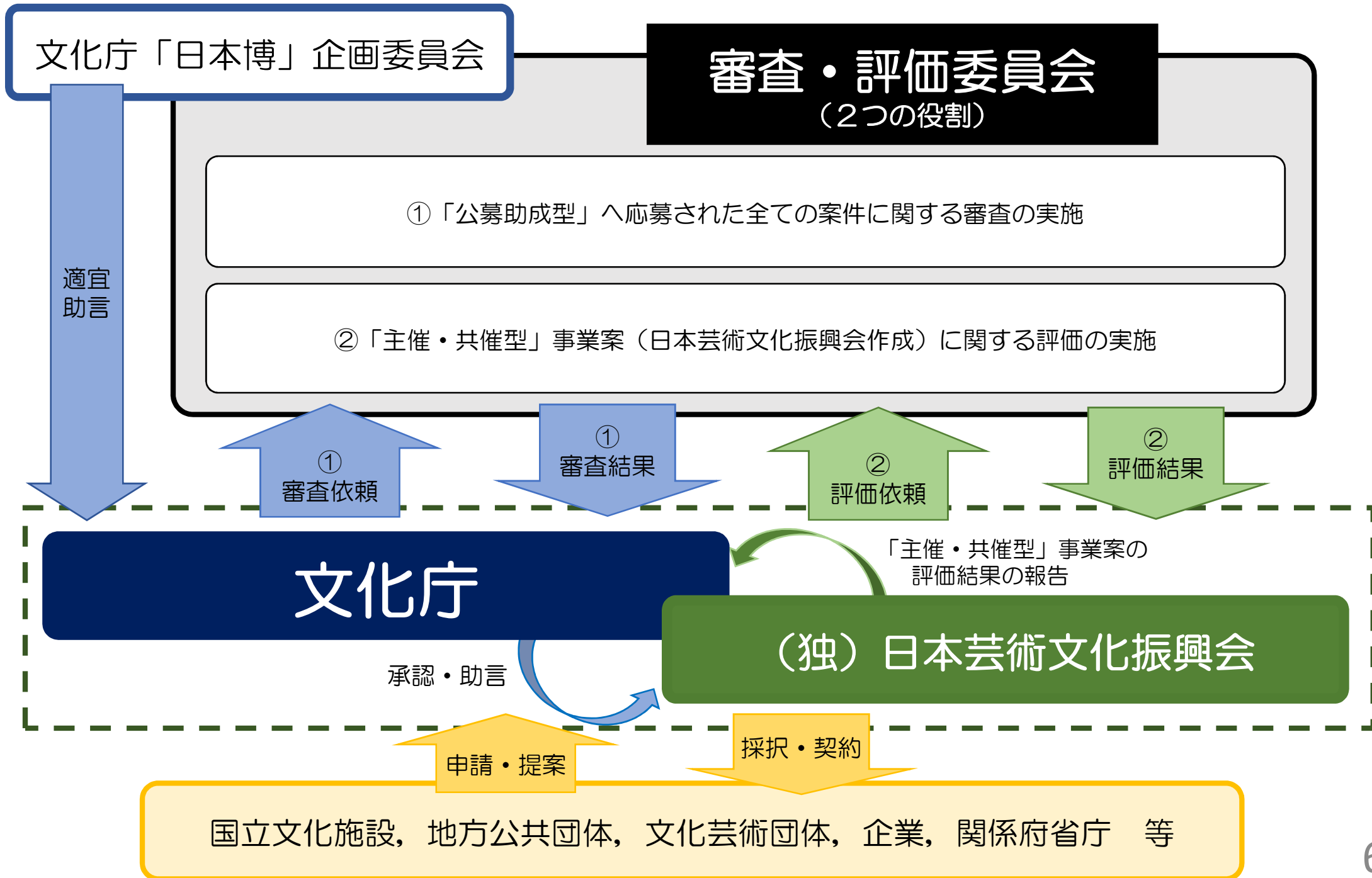
※4月26日一次分採択済（26件）
今後、二次公募予定

参画型

各地域や団体の特色ある企画を公募し企画内容を認証

日本芸術文化
振興会において
随時受付中

「日本博」予算事業フローについて



審査・評価基準について（観点①）

＜文化芸術性の高さや日本の美の対外発信を意識したストーリー性＞

1. 「日本博」の総合テーマ「日本人と自然」及び基本コンセプトに沿った内容であるか。
2. 我が国若しくはそれぞれの分野における代表的な文化芸術プロジェクトであって、又は当該実施地域の代表的な特色ある文化芸術プロジェクトであって、国内外に発信するものとしてふさわしいものであるか。
3. それぞれの分野において独自性や優位性が大きく認められる、新規性・創造性が高いプロジェクトであるか。なお、美術・文化財、舞台芸術、メディア芸術、生活文化・文芸・音楽、食文化・自然、共生社会・多文化共生、被災地復興等の複数分野が連携するプロジェクトであること、又は異なる時代の文化芸術を比較したプロジェクトであること等の工夫があると望ましい。
4. 文化財等の文化芸術資源を有効に活用するプロジェクトであって、新しい手法・演出や最先端技術を導入しているか。
5. 「日本博」で培ったノウハウをその後の文化芸術活動におけるレガシーとして生かして継続する観点が含まれたプロジェクトであるか。
6. 子供・若者・高齢者・障害者等の文化芸術活動の促進や多文化共生の推進に資する取組を行っているか（企画内容や、参加者にとっての阻害要因を取り除く取組を含む）、又は被災地に関するプロジェクトであって、国内外の発信や被災地へ誘客する工夫がなされているか。
7. 文化施設、民間団体等と連携し、複数分野を一つの面的な空間又は、広域で企画・演出して行う、「日本博」の中核となる大規模なプロジェクトであるか（主催・共催型のみ）。

審査・評価基準について（観点②）

<2020オリパラ大会との関連やインバウンド拡充の観点>

1. 訪日外国人の関心が高い内容であること若しくはストーリー性に配慮した解説をするなど訪日外国人にとって分かりやすい内容であること、又は「日本博」のプロモーションのためにプロジェクト実施の映像や画像の提供等が行われる等のインバウンド促進を喚起する取組の工夫がなされていること。
2. 地方への誘客に資するプロジェクトであるか。
3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を機に世界にアピールする観点を含む計画であるか。
4. 「日本博」で培ったノウハウをその後の我が国・社会のレガシーとして生かして継続する観点が含まれたプロジェクトであるか。

審査・評価基準について（観点③）

＜委託費・補助金執行の適正性の確保・効果検証＞

1. プロジェクトの実現可能性が高いか又は実施するための実績があるか、かつ、プロジェクト実施することが可能な体制を有しているか。
2. プロジェクト内容の成熟度が高く、複数年にわたる準備が必要なものは、その計画性が示されているか。
（主催・共催型及び公募助成型のみ）
3. 事業実施の効果について明確な目標を設定し、地元の大学やシンクタンク等の専門機関による効果検証を行う、又は事業実施の報告等で協力する計画であるか。（主催・共催型及び公募助成型のみ）
4. 資金計画が、経費や規模の面で合理的であるか。（主催・共催型及び公募助成型のみ）
5. 民間の協賛金や助成金、クラウドファンディングなどの外部資金の獲得や、自己収入等を活用する具体的な取組が設定されているか。（主催・共催型及び公募助成型のみ）
6. 文化庁及び日本博事務局がプロジェクトの実施主体となる体制がとられているか。（主催・共催型のみ）